

## 平成29年度 第2回（震災後78回）

### 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「はまかだスポットガイドと居場所づくりについて」

日時：平成29年6月23日(金)13:30～15:30

場所：陸前高田市役所4号棟第6会議室

参加：35名 13団体

資料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

#### 内容

##### (1) 挨拶

陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚

##### (2) 未来図会議が目指してきたこと ～一人一人が元気になる地域づくりに向けて～

陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也氏

##### (3) 未来図会議参加者による意見発表

##### (4) その他連絡・アナウンス

#### 1 挨拶

**陸前高田市民生部長兼保健課長 菅野利尚：**

国が1億総活躍社会を目指しており、高齢化や人口減少対策について考えている。陸前高田市は、人口が20000人を切っている状態であり、昨年度末は高齢化が約37%と増加している。今までは、市で場を設定して進めていることが多かったが、今後、市民全員が主体になって物事を進めていく必要があるのではないか。現在、はまかだスポットを、それぞれの地区で核を作って進めている最中である。今日の会議の中で、皆さんの意見をいただきながら、市としても今後の地域づくりを進めていきたいと考えている。

#### 2 導入説明

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 佐々木亮平 氏：**

この度、市民1人1人が主役となって地域づくりを進めていきたいと考え、未来図会議の実施要領及び運用規定を改定した。詳細を資料として配布しているので、お目通しをお願いしたい。本日は、岩室先生や地域包括支援センターの方に説明をしていただきながら進めていきたい。現在、新しい動きや体制も出てきている。まずは、まだ試作段階である

が、今回のテーマである「はまかだスポットガイド」について、SAVE TAKATAの佐藤氏に説明をお願いしたい。陸前高田市役所保健課の生活支援コーディネーターである金野康子さんに実際に歩いているはまかだスポットについてお話を伺いたい。

はまかだスポットガイドをつくることも居場所をつくるための1つの手段である。あくまでも、はまかだスポットガイドをつくるのが目的ではなく、つくる過程で皆様と様々なことをさせていただきたいと思っている。

### 3 未来図会議が目指してきたこと ～一人一人が元気になる地域づくりに向けて～

#### 陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也 氏：

未来図会議は、市民一人ひとりが健康で文化的な生活を送るため、関係者がいろいろなことで寄与し続けられるよう、お互い様、協働について皆さんと考え続けている。保健課だけが頑張ってもこの目標の達成は困難であり、皆で取り組むことが求められる。いろいろな方が集って協働するためには、「はまってけらいん・かだってけらいん」が大切だという考え方が広がっているように思う。

地域のつながりを作る上で、絆（きずな）の他に、絆（ほだし）を意識すると、信頼関係が育まれる。ソーシャルキャピタル（きずな+ほだし）があるところでは、自殺率、死亡率が減り、一人ひとりが健康になる。今回は高齢者の社会参加と生活支援、介護予防サービスの今後の方向性について皆さんと考えたい。

#### 陸前高田市保健課地域包括支援センター 係長 佐藤咲恵：

私たちが今から行おうとしていることは、最終的には、高齢者の社会参加が目標であり、そのためにどうしていくか、がテーマである。背景には、高齢者世帯や高齢者の単身世帯が増加する中、生活支援の必要性が増大しており、市役所だけでは担いきれない現状がある。また、私たちは、NPO団体等と一緒に協働していかなければいけないと学んだ。そこで、今年度より生活支援コーディネーターを含めた地域の協議体というものをまちづくり協働センターに委託している。生活支援・介護予防サービスと高齢者の社会参加を合わせた「生活支援の担い手としての社会参加」を目指して地域でどのようにしていくかを協議していく場を設定した。自由な発想で、その地域に合わせた方法を取り、行っている。

地域ごとに協議体を調整するのが、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の役割である。ハイリスクアプローチよりポピュレーションアプローチの部分が大きいと感じる。社会参加促進のために、支えられ上手、支え上手を増やし地域の力量を高めていきたいと考えている。地域の資源や社会的に弱い方も含めて、どこにだれがいて何をしているかは、地域住民がよく理解している。そのことを踏まえて、地域で支え合いについて考える場として計画している。現在、各町ごとに調整している段階であり、まだ実施には至っていない。陸前高田市は、長い歴史の中で、町意識が高い。陸前高田市の場合、町ごと、コミュニティごとに取り組むことで、より「自分事」として考えられるのではないかと

と思う。

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也 氏：**

今後、NPOの方々も自然と生活支援コーディネーターと同じような役割をすることも考えられる。地域の方は、一見地域の情報をわかっているようで意外と知らないこともあるのではないかと。基本はまちづくり、地域づくりを目指しているということをご理解いただきたい。

**一般社団法人 SAVE TAKATA 佐藤睦志 氏：**

SAVE TAKATAでは、ITやWebを使って人と人をつなぐことを目的に活動している。我々ができることは限られているが、「はまかだスポットガイド」の進捗状況と併せて説明させていただく。「はまかだスポット」と一口に言っても健康づくり、お茶のみの場等様々なので、目的や用途に合わせて検索できるような仕組みで作成中である。アイコンは、項目に応じてわかりやすいイラストに変更可能。クリックすると、リンクが表示され、ホームページを閲覧できるようなシステムとする予定である。

**陸前高田市保健課生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員） 金野康子：**

昨年8月より生活支援コーディネーターとして配属されている。現在の活動としては、実際に現場に出向き、はまかだスポットの調査を行っている。陸前高田市保健課（包括支援センター）主催で、ノルディックウォーキングを行っている。現在、小友町の矢の浦公民館を会場に全5回でノルディックウォーキング教室を開催している。来月からは、下矢作（矢作6区）の会館を会場にノルディックウォーキング教室を開催予定である。矢の浦公民館で昨日開催した教室では、20名近くの参加があった。その中で、2名の方は、実際にはノルディックウォーキングをしなかったが、歩いて会場まで来ていただいた。2人は「会場までの移動で疲れたので、ノルディックウォーキングはせずにここで待っている。この場に来て、こうやってみんなの顔をみて話をするのが楽しい」と話していた。その時は、荷物番をお願いした。また、矢作地区で毎週木曜日の移動販売の時に集まっている光景がみられる。本来の目的である買い物の他、顔を合わせ最近の近況報告などをする憩いの場となっている。市全体で、いろいろな活動をはまかだスポットガイドに載せて活用し、高齢男性だけでなく、様々な方が利用できるものにしていきたいと考えている。

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也 氏：**

はまかだスポットガイド調査に携わる前と後とでは、はまかだスポットに対する思いはどう変わったか、お話を伺いたい。

**陸前高田市保健課生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員） 金野康子：**

初めは、市の主催する介護予防教室、NPO法人が主催するお茶飲み会に参加させていただいた。普段誰とお茶のみしているか、といったような様々な情報を吸い上げることができた。

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也 氏：**

行政がなかなか把握しきれていない部分に関わっていると感じた。今後も、様々な視点で物事を発掘して行っていただきたい。

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 佐々木亮平 氏：**

インターネットを利用したマップは便利だと思う。普段パソコンやスマートフォンなどの電子機器を使用して情報収集している方もあれば、そうでない方もいるとは思いますが、皆様からご意見があればお願いしたい。

**陸前高田市社会福祉協議会 木下 淳 氏：**

非常に便利だと思う。ただし、スマートフォンやパソコンを使いこなせる方は良いと思うが、高齢者等は情報を得るのが難しいのではないかと。ソフト面では良いことだと思うがハード面ではよくないのではないかと。ホームページやフェイスブックに掲載していても、周知方法を検討しないと、市民全体に情報が行き渡るのには難しいと感じる。

**一般社団法人 SAVE TAKATA 佐藤睦志 氏：**

マップが出来ても、実際に人が利用して活用できないと、生きてこない。例えば、地区のコミュニティセンターに置いて使い方が分からない場合には、だれかに操作してもらう必要がある。

**特定非営利活動法人 きらりんきつず 伊藤昌子 氏：**

小さなお子さんがいる母親の間で多く利用されていることから、情報発信の手段として、Facebook・ホームページを使用している。中には、Facebookでの参加申し込みをしてくる方もいる。はまかだスポットガイドが完成したら Facebook に載せて活用できると思う。

**りくカフェ 及川恵里子 氏：**

ホームページでも情報公開しているが、常連さんの中では Facebook 利用者も多い。また、工事中のりくカフェが準備の段階となり、今後ははまかだスポットとして開放も検討している。はまかだスポットガイドを運用していくときに、新しいお知らせをする際、ホームページにアップしてよいかどうか疑問に思った。

**一般社団法人 SAVE TAKATA 佐藤睦志 氏：**

更新をしていただける方にIDやパスワードを伝えて依頼する方法と、広告を掲載することになれば、入力を担当するスタッフを雇用する方法がある。

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也 氏：**

良いヒントをいただいた。例えば、子育てをポイントとしてはまかだスポットを知り、周りの方と関わっていくという流れもあると思う。

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 佐々木亮平 氏：**

地域での居場所づくりについて、グループワークをしていきたいと思う。

※テーマ：はまかだを推進するための協働（お互いさま）とは

→グループワークの結果についてはスライド資料を参照

**陸前高田市被災地絆づくりアドバイザー 岩室紳也 氏：**

今、男性の問題として、自殺が取り上げられている。陸前高田市の60～70歳代男性の自殺率は低い。しかし、陸前高田市女性の自殺率は少し高い。これは、追い詰められた時の女性のはまかだが、我々が想像しているよりも行われていないことを示唆しているのではないかと考える。

また、改めて「はまかだスポット」というように見るのではなく、現在行われていることを継続していくというスタンスで行っていくことが大切であり、基本的な考えがブレないように気をつける必要がある。

**4. その他連絡・アナウンス**

まちづくり協働センター 柴田紗希 氏：

平成29年度まちづくりコーディネーター養成講座の紹介

◆次回（第79回）：平成29年7月20日（木）13：30～15：30

メインテーマ：地域に入っていくということとは？

～その地域の持っている力を醸成していくためには～

会場：陸前高田市役所 4号棟3階6会議室